

日蓮大聖人御書全集

うえのどのごへんじ

上野殿御返事

ほけきようなんしん こと

(法華経難信の事)

新版
1922
〜
1923

うえのどのごへんじ ぼけきようなんしん こと

上野殿御返事 (法華経難信の事)

こうあん ねん がつ にち さい なんじようときみつ

弘安 4 年 ('81) 3 月 18 日 60 歳 南条時光

いものかしらひとたわら た お 神 主 そうろう

蹲 鴟 一 俵、 給 び 了 わ ん ぬ。 ま た こ う ぬ し の も と に 候

おんちしおいちひき くちつ ひとりそうろう

御乳塩一疋、ならびに口付き一人候。

こごろうどの 歎 古 思

さては故五郎殿のことは、そのなげきふりずとおもえど

ご 見 参 遥 覺 そうじ

も、御げんざんははるかなるようにならばこそおぼえ候え。

ほけきよう 怨 絶 み そうら

なおもなおも法華経をあだむことはたえつとも見え候

後 そうら

わねば、これよりのちもいかなることか候わんずらめども、

堪 たま 真 そうろう

いままでこらえさせ給えること、まことしからず候。

ほとけと

宣

仏説いてのたまわく

ひい

焼

もの

「火に入つてやけぬ者はありとも、

おおみず

い

濡

者

たいさん

そら

飛

大水に入つてぬれぬものはありとも、大山は空へとぶとも、

たいかい

てん

上

まつだいあくせ

い

しゆゆ

あいだ

大海は天へあがるとも、末代悪世に入れば、須臾の間も

ほけきよう

しん

難

そうろう

法華経は信じがたきことにて候ぞ」。

きそうこうてい

かんど

あるじ

もうここく

擲

取

たま

徽宗皇帝は漢土の主。蒙古国にからめとられさせ給いぬ。

おきのほうおう

にほんこく

主

うきようのごんのだいぶどの

攻

隠岐法皇は日本国のあるじ。右京権大夫殿にせめられさせ

たま

しま

果

たま

給いて、島にてはてさせ給いぬ。

ほけきよう

故

そくしん

ほとけ

成

法華経のゆえにてだにもあるならば、即身に仏にもなら

たま

み

破

いのち

捨

せ給いなん。わずかのことに身をやぶり命をすつれども、

ほけきよう おん 故 怪 咎 当 思 ひと

法華経の御ゆえにあやしのとがにあたらんとおもう人は

そうら み こころ たま そうら 尊

候わぬぞ。身にて心みさせ給い候いぬらん。とうとし、

きようきようきんげん

とうとし。恐々謹言。

こうあんよねんさんがつじゆうはちにち

弘安四年三月十八日

にちれん 日蓮 かおう 花押

うえのどのごへんじ

上野殿御返事